

耐震診断に関する注意事項  
14年10月

(一社)和歌山県建築士会  
耐震診断・判定委員会

新基準になって半年が過ぎました。審査の中で多かった訂正事項やマニュアルで対応できない事項をお知らせします。

1. Wee2012をVer1.2.0にバージョンアップしてください。

2. 診断士情報を再確認してください。

1) 所属：(一社)和歌山県建築士会

2) 講習会：「公共団体」にチェックして『(一社)和歌山県建築士会』と入力。

講習終了番号は、診断士の認定番号を入力して下さい。

3) 連絡先：会社名(田辺支部は支部名)

4) 電話：会社または自宅電話番号

番号の後に診断士の個人名を入れることをお勧めします。

3. 建物重さ判断の再確認。

士会作成マニュアル10頁④

建物の重さ：**建物の重さは屋根仕様及び壁仕様にて判断。**プログラム本26頁

	屋根	非常に重い屋根 土葺き	重い屋根	軽い屋根
壁				
非常に重い壁 内外とも土塗り壁		非常に重い 建物	非常に重い 建物	重い建物
重い外壁 外壁のみ土塗り壁		非常に重い 建物	重い建物	重い建物
軽い外壁 モルタル壁他		非常に重い 建物	重い建物	軽い建物

※屋根材重量は、黄本P.125の荷重から逆算すると以下のようになる。

非常に重い屋根 ≒ 65kg/m<sup>2</sup>超

重い屋根 ≒ 65kg/m<sup>2</sup>以下

軽い屋根 ≒ 40kg/m<sup>2</sup>以下

4. 基礎

1) 様式の判断

・ I：健全なRC基礎

・ II：クラックのあるRC基礎、軽微なクラックのある無筋コンクリート基礎

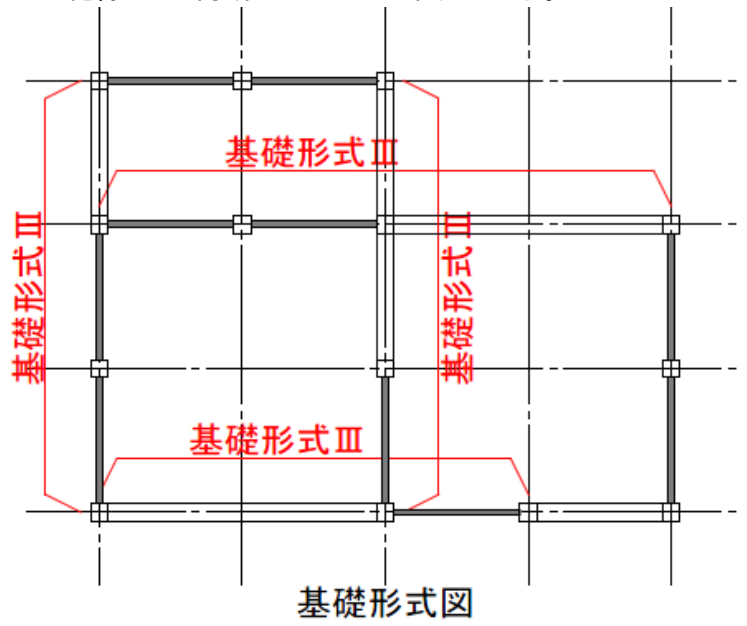
・ III：クラックのある無筋コンクリート基礎

コンクリートブロック基礎、コンクリートブロック腰壁

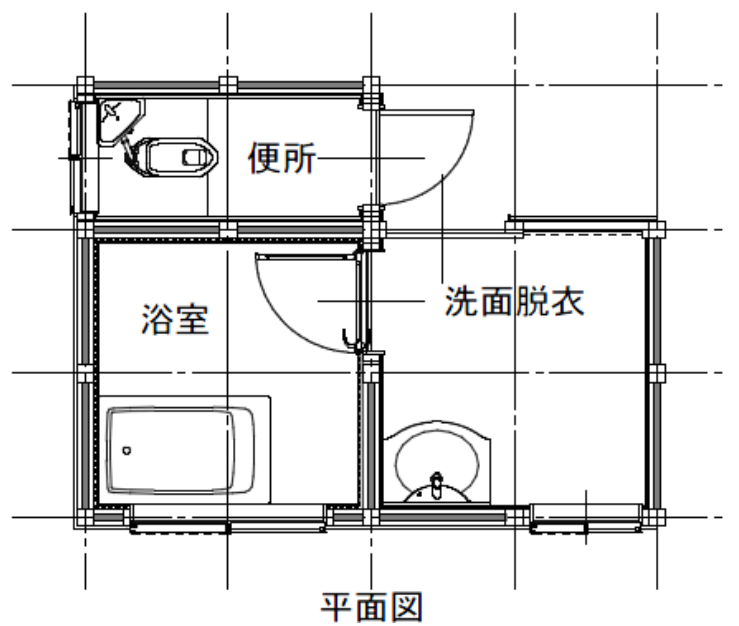
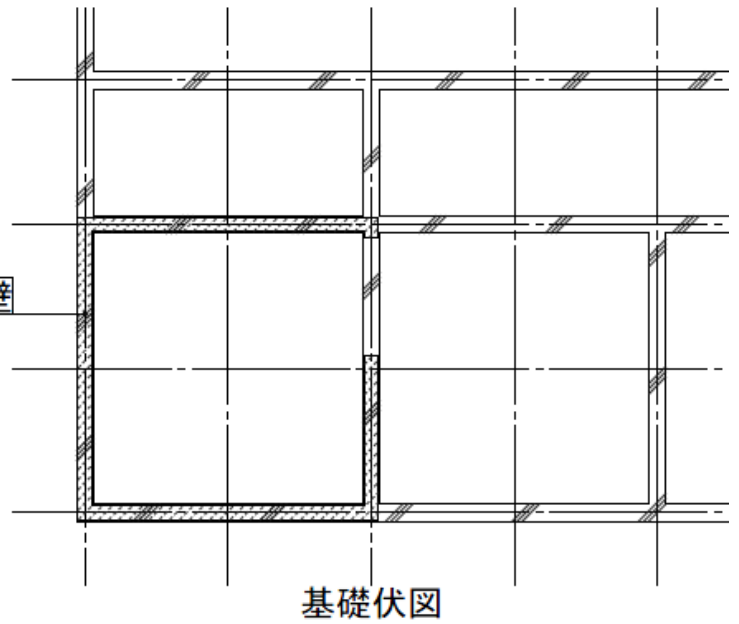
石基礎(足固めの有無に関わらず)

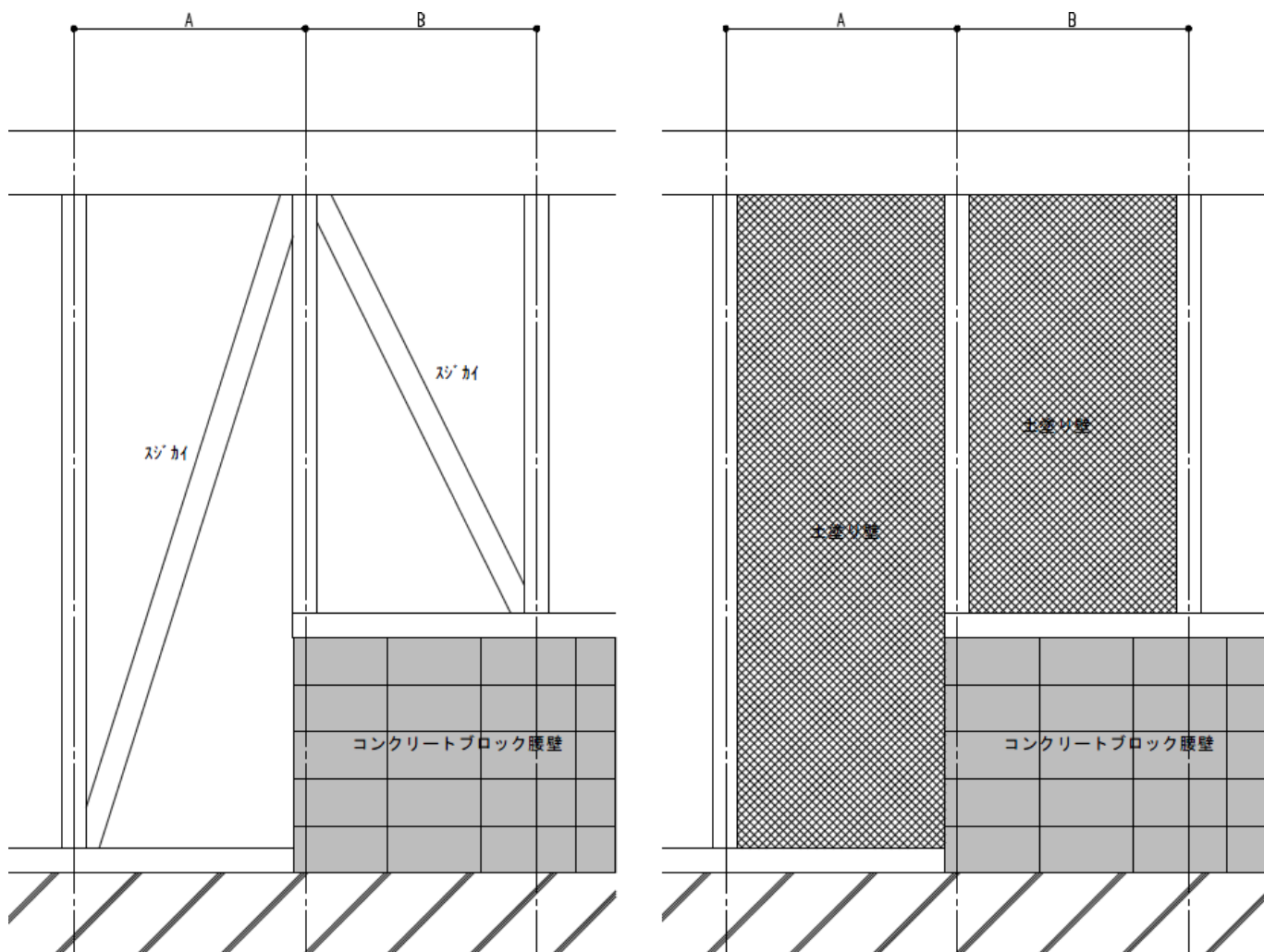
2) コンクリートブロック腰壁回りの基礎様式の判断

下図による。



コンクリートブロック腰壁





※上図のA, Bとも基礎様式Ⅲとして下さい。Aに関しては耐力を評価してよいのか検討中です。Aの右側の柱が、途中で切断されている状態です。来年度以降は、扱いが変わる可能性があります。

## 5. 耐震壁

- 1) 片方の柱が半柱の場合は、耐震評価できる壁ではありません。片引き戸などによる半柱の壁は、壁として入力しないで下さい。壁として入力されると、補強設計の時に補強対象壁と間違われる場合があります。
- 2) 1/2モジュールの壁は耐震評価出来ませんが、耐力無しの壁として入力して下さい。

## 6. 耐震要素

- 1) 新しい耐震要素（化粧合板  $t=3\text{mm}$  以上、ラスボード等）は必ず評価して下さい。
- 2) ラスボード漆喰塗り  
石膏プaster塗りではありませんか？ 石膏プaster塗りなら、ラスボードだけで評価して下さい。
- 3) 土塗り壁とラスボード  
一般的に土塗り壁とラスボードの併用は考えられません。土塗り壁の上に左官仕上げだと思われます。
- 4) 『土会作成マニュアル』では、コンクリートブロック腰壁上の耐震要素は評価しないとしていましたが、新Weeでは、各壁毎に基礎仕様を設定できるように改良されましたので、コンクリートブロック腰壁上の耐震要素も評価してください。ただし基礎様式Ⅲとすること。
- 5) 浴室のラスボード  
一般的に、浴室へのラスボードの使用は考えにくいです。
- 6) 浴室のラスモルタル壁  
天井裏も施工されていますか？
- 7) ラスシート  
ラスシートとはラス網のことではありません。波トタンにラス網を溶接したモノです。
- 8) 両面ラスボード真壁の場合、筋交いが施工できますか？
- 9) 土塗り壁の状態をきっちりと調査して下さい。一般的に、外壁は横架材まで届いていますが、間仕切り壁は届いていない（天井面で止まっている）ことが多いです。
- 10) 足固め（下部の横架材）の無い壁の場合、土塗り壁以外の耐震要素は評価出来ません。土塗り壁も耐力を  $1/2$  として、その他（別添仕様）で入力して下さい。
- 11) 貫の評価  
貫は、土塗り壁や化粧合板など、貫以外の耐震要素が無い場合のみ評価して下さい。また、貫を評価する場合は、開口部は評価出来ません。つまり、貫を評価する場合は、貫の設置されている無開口壁のみ評価します。

## 7. 開口部

- 1) 玄関や土間納まりの勝手口は、欄間の有無に関わらず、基礎や土台が無い場合、開口部（戸、掃き出し）として評価できません。
- 2) 天袋のある押入や、欄間付きの襖などは、開口部（戸、掃き出し）として評価できません。
- 3) 開口部の腰壁やたれ壁には何らかの耐震要素（モルタル、土塗り壁、ラスボード、合板、石膏ボード等）がありますか？ 何らかの耐震要素が施工されていない場合は評価できません。
- 4) 評価出来ない開口部は、無耐力の壁としない。何も入力しないこと。

## 8. その他

- 1) 報告書（1部のみ）に、市町受付番号、診断士番号を鉛筆書きして下さい。調査日はWe eに入力できるようになったので、書き込み不要です。
- 2) その他（別添仕様）の耐震要素を使用した場合は、We eの壁配置図にその仕様を赤ペンで記入して下さい。
- 3) 床下天井裏の写真が撮影できなかった場合は、その旨を写真頁に記載して下さい。またその場合は、床下や天井裏の状態を建物にとっての不利側に判断して下さい。
- 4) 小屋裏写真、天井裏写真で火打梁が確認できるのに、火打梁無しとなっている場合があります。
- 5) 画像ファイルがどんどん大きくなっています。エクセルシートに貼り付けた状態で20MBに近い場合もあります。  
画像の編集が出来る方は、画像の解像度を640\*480ピクセル程度にして下さい。
- 6) 筋交いを評価した場合は、必ず、最終頁【その他注意事項】に筋交いに関する考察を入力して下さい。